

(自己独立性)を学び、しかも、社会の人間関係の中で、自分の態度の一貫性(自己同一性)を保つように発達していきます。

以上の発達課題を達成するには、学習課題を定め、家庭、学校、社会の教育領域の中で実践する必要があります。具体的な学習課題達成方策をまとめたのが表2、3です。

二、青少年の意識と課題

ここ数年、市町村教育委員会では、社会教育振興計画作成上から、在学青少年の意識に関する調査を実施しています。

表4・5は、これら市町村の調査資料を参考とし、ほぼ共通な調査項目を基に図表を作成しました。その集計データから、在学青少年の意識の傾向をさぐり、そのことからみられる共通の課題をとらえ、社会参加の方策を考えてみました。

(一) ふるさと居住意識

① 郷土離れの傾向

表6-1、八町二村の小・中・高校生将来にわたる郷土への居住についての意識を「任んでいたい」「住みたくない」「どちらともいえない」の三つの点から類型化を試みたグラフです。

このことから、どの町村とも、小学生は、郷土への定住志向意識が高く、中・高と学年進行につれて低くなり、

表4 使用した町村の調査資料

町村名	調査資料名	小学生		中学生		高校生		調査年
		学年	回収数	学年	回収数	学年	回収数	
月 舘 町	在学青少年に対する意識調査	5～6	171	1～2	145	1～2	126	60.3
梁 川 町	在学青少年の生活意識の実態	5	393	2	349	1	126	60.6
川 俣 町	在学青少年の意識と実態	6	347	2	283	2	132	58.10
国 見 町	在学青少年の生活意識と実態	5	180	2	86	1～3	71	59.1
滝 根 町	社会教育調査(在学青少年)	5～6	184	1～2	183	1～2	139	58.7
鏡 石 町	在学青少年社会教育調査	5～6	240	1～3	310	1～3	229	60.2
古 殿 町	在学青少年の生活意識調査	5～6	226	1～2	176	1～2	100	60.2
表 郷 村	在学青少年の生活意識と実態	6	95	3	97			58.7
会津坂下町	在学青少年の生活意識と実態	5～6	333	2	249	1～2	153	58.5
湯 川 村	在学青少年の意識	5	47	2	50	2	43	58.2
柳 津 町	在学青少年社会教育調査	5～6	145	2	64	2	56	58.6
高 郷 村	在学青少年の意識調査	5～6	67	2	43	2	40	59.2
新 鶴 村	社会教育調査(在学青少年)	5～6	50	2	50	2	45	60.9
伊 南 村	社会教育調査(在学青少年)	5～6	71	1～3	106	1～2	33	60.2
双 葉 町	在学青少年社会教育調査	4～5	251	2	96	1～3	74	60.3
大 越 町	在学青少年の社会体育意識	5～6	217	1～3	367	1～3	287	58.12

表5 参考とした市町村の調査資料

市町村名	調査資料名	調査年	市町村名	調査資料名	調査年
船 引 町	住民の社会教育に関する調査	60.2	須 賀 川 市	公民館運営に関する意識調査	60.3
矢 吹 町	社会教育アンケート調査	59.1	棚 倉 町	社会教育に関する調査	59.3
中 島 村	中学生に関する生活意識実態	59.3	白 河 市	市民のスポーツに関する調査	59.6
いわき市	青年の意識調査他	58.3	北 塩 原 村	在学青少年の意識調査	59.3